愛媛経済論集第10巻　第2号　(1990)

イギリス議会エンクロージャーにおける土地分配・詳論(1)*

——ウェストン・ターヴィル教区の研究——

重　富　公　生

目　次

Ⅰ　本稿の対象と方法
(1)　はじめに
(2)　史料
Ⅱ　エンクロージャーによる土地分配過程
(1)　エンクロージャー実施以前の状況　(以上本稿)
(2)　土地分配業務の進行
Ⅲ　各土地所有者における変化
Ⅳ　十分の一税の処置
(1)　十分の一税代替の過程
(2)　教区聖職者の財産の変化
Ⅴ　借地リース権のあつかい
Ⅵ　考察

*)　本稿は三ないし四回に分けて発表する予定であるが，次回以降は目次に若干変更がある可能性もある。読者の御海容を乞いたい。

本稿は平成元年度および同二年度文部省科学研究費補助金（奨励研究A）による研究成果の一部である。

I　本稿の対象と方法

(1)　はじめに

ある研究者の定義によれば，エンクロージャーという語は「境界のない広い農地における，共同管理の保有地での協力的・連帯的で伝統的な耕作方法から，個人の土地を隣人の土地から境界によって区別する個別所有の耕地制度へ移行する土地変革をさす。エンクロージャーは開放耕地を個別所有に変え，また改めた。結局エンクロージャーとは，所有権を特定し，（たとえば共有権の識別・分離により）共同所有に判決をくだし，共同規制，特権，権利を全面的に無効宣言することであった。エンクロージャーはまた共同地，荒地，荒野，沼沢地，荒蕪地の個別所有への細分化を意味し，くわえて規制，特権，権利の否定をふくむ。」[1]

厳密にはこのような事態を意味するエンクロージャーは，よく知られているように，イギリス史のうえでは長期にわたって観察される。そして最終的には十八世紀から十九世紀にかけての議会法令（private act）による議会エンクロージャーが，イギリスになお広く残存していた開放耕地を私的・個別的所有に移行させた。これが資本主義農業確立の一大契機となったのはいうまでもない。したがって議会エンクロージャーは経済史上でも最重要のテーマのひとつとして，一世紀以上にわたる長い研究・論争の歴史を有している。そこで主要な研究対象となったトピックスは議会におけるエンクロージャー法案の審議過程，現場でのエンクロージャー実施の責任者たる囲い込み委員の活動と性格，土地所有者の負担費用およびその調達法，そしてエンクロージャーと産業革命時の工業労働力供給との関係など，じつに多面にわたっている[2]。

とりわけ議会エンクロージャーの社会・経済的特質を知るためにもっとも肝要な問題は，冒頭にあげた定義にあるように，エンクロージャー時の土地の交

1）M.E. Turner, *Enclosures in Britain 1750−1830* (London, 1984), p. 11, 邦訳：『エンクロージャー』（拙訳，慶応通信，1987），13頁。

2）具体的には，拙稿「イギリス議会エンクロージャー研究の最近の動向」『三田学会雑誌』第79巻第2号（1986年）を参照されたい。

換・分合の実態であろう。これは土地所有動向の変化および所有者各層それぞれが被った影響というかたちでみることができようが，従来はもっぱら「小農」の消滅の原因および工業労働力供給源としての議会エンクロージャーという視角から注目をひいてきた。今世紀初頭のポール・マントウやハモンド夫妻らはエンクロージャーのこのような側面を強調したのにたいし[3]，その後地租査定簿を史料としてもちいて，これを否定する一派とが対立した。後者にぞくする研究者として A.H. Johnson, H.L. Gray, E. Davies, J.D. Chambers, G.E. Mingay らをあげることができるが，彼らはその実証水準における優位性から，今世紀前半から中葉にかけて次第に前者を圧倒していった[4]。いうなれば，同時期の産業革命の評価とパラレルな推移をみせたが，これらのいきさつについてはすでに他の多くの論者が言及している[5]。

ところで，Chambers らの優勢のうちに決着がついたように思われていたこれらの問題について，近年いくつかの新しい論点の展開や発見がおこなわれた。第一に，たしかに「小農」の減少・消滅はすくなくともエンクロージャー時には一般的ではなかったが，土地所有者各層の激しい入れ替わり（turnover）が観察される。すなわち特定階層の量的変化ではなく，顔ぶれの入れ替わりを示すことによって，エンクロージャーの土地所有者への影響の大きさがあらため

3）Hammond, J.L. & B., *The Village Labourer,1760－1832*(London, 1911); Mantoux,P., *The Indusrial Revolution in the Eighteenth Century* (English Translation: London, 1928), 邦訳：『産業革命』（東洋経済新報社，1964）。

4）Johnson, A.H., *The Disappearance of the Small Landowner* (London, 1909); Gray, H.L., "Yeoman Farming in Oxfordshire from the Sixteenth Century to the Nineteenth", *Quarterly Journal of Economics*, XXIV(1910), pp. 293－326; Davies, E., "The Small Landowner, 1780－1832, in the Light of Land Tax Assessments", *Econ. Hist. Rev.*, 1st Ser., I, 1 (1927), pp 87－113; Chambers J.D., "Enclosure and Small Landowner", *Econ. Hist. Rev.*, 1st Ser., X, 2 (1940), pp. 11－27; Do., "Enclosure and Labour Supply in the Industrial Revolution", *Ibid.*, 2nd Ser., V, 3 (1953), pp. 319－343; Mingay, G.E., *Enclosure and Small Farmer in the Age of the Industrial Revolution* (London, 1968), 邦訳：『イギリス産業革命期の農業問題』（亀山漆訳，成文堂，1978）。

5）研究動向をまとめたものでは，Blum, J., "Review Article. English Parliamentary Enclosure", *Journal of Modern History*, LIII, 3 (1981), pp. 477－504がすぐれている。また Brewer, J.G., *Enclosure and the Open Fields: A Bibliography* (Brit. Agric. Hist. Soc., 1972) は，やや古いが管見のかぎりではもっとも包括的な文献目録である。

て浮き彫りにされた[6]。のみならず，さらにすすんで各階層全般ではなく明らかに下層の入れ替わりが多く，しかも残存した者もエンクロージャー後の変化で甚大な打撃を受けたことを（興味ふかいことにChambersが研究対象とした）ノッティンガムシャーにおいて実証した研究も現われた[7]。

第二に，産業革命時の工業労働力が制度的（つまりエンクロージャーによる）創出物とするM. Dobbにたいし，Chambersは自然的人口増加分の一部が工業の労働力となったとする対立する見解を示したが[8]，この問題についても新しい発見があった。まずさきの入れ替わりとも関連するが，エンクロージャーと人口移動との密接な関係がふたたび強調された。N.F.R. Craftsは，Chambersが地域的に著しく限定された材料を用いていることを批判し，エンクロージャーと人口移動の広範囲にわたる高い相関を計量的手法により証明した[9]。他方，K.D.M. Snellはエンクロージャー自体がむしろ人口増加の一契機となった側面を重視する。議会エンクロージャーの時期は，農村の労働力編成の態様が家内労働（service）を中心とした徒弟制的原理から市場的原理へ移行する最終的かつ決定的局面と一致していたという事実が，かれの基本認識である。すなわちイングランド北部を除外した広範囲の事例を観察した結果，エンクロージャー以前と以後とでは顕著な変化が観察される。失業の季節的偏在性（seasonal distribution）および男女労働の職種の分化傾向が強まったこと，とくにミッドランドではエンクロージャーによって耕地が牧場に移行することが多く，労働力需要が減退したこと，家内労働（service）が衰退し，救貧税負担額が明らかに上昇していることなどである。そしてこれらの結果として結

6） Turner, M.E., "Parliamentary Enclosure and Landownership Change in Buckinghamshire", *Econ. Hist. Rev.*, 2nd Ser., XXVIII, 1 (1975), pp. 565－581; Martin, J.M., "The Small Landowner and Parliamentary Enclosures of Warwickshire", *Econ. Hist. Rev.*, 2nd Ser., XXXII, 3(1979), pp. 328－343.

7） Neeson, J.M., "Parliamentary Enclosure and the Disappearance of the English Peasantry", in: *Reseach in Economic History* (eds. Grantham, G. & C.S. Leonard), Supplement 5, Part A (Conneticut, 1989), pp. 89－120. これはエンクロージャーと農民経済の変化の関係について，すこぶる示唆的な見解を随所にふくんだ好論である。

8） Dobb, M., *Studies in the Development of Capitalism* (London, 1954), p. 223, 邦訳：『資本主義発展の研究（Ⅰ，Ⅱ）』（京大近代史研究会訳，岩波書店，1954），Ⅱ，4頁; Chambers, *op. cit.*

9） Crafts, N.F.R., "Enclosure and Labour Supply Revisited", *Explorations in Economic History*, XV, 2 (1978), pp. 172－183.

婚年齢の低下・結婚率の上昇が起こり，それによって出生率も上昇をみた[10]。

以上のような研究の新展開を念頭に置きつつ，本稿はつぎのような主旨および目的をもつものである。個々の議会エンクロージャーの過程は通常3つの段階に分けることができる。第一に主として教区内でエンクロージャーの請願をとりまとめる準備段階，第二に議会でのエンクロージャー法案の審議および通過過程，第三に現場でのエンクロージャー実施過程である。これらの過程についてはHammond夫妻とW.E. Tateの著作が比較的詳細に論じている。両者ともさまざまな事例をピックアップし，とりわけHammond夫妻の労作は議会の審議過程の実態とそこにひそむ問題をえぐり出したが，夫妻の史料分析の方法と事例の選択のあり方について，後年疑問が呈されている[11]。ここでは第三の現場でのエンクロージャーの実施過程をとりあげるが，両者とは違い，バッキンガムシャー一教区でのエンクロージャー時の土地分配の顚末を，現存する史料によりできるかぎり詳しく追う作業に終始する。というのも上記のような研究の展開をみせるエンクロージャーと土地所有者各層の消長，賃労働創出との関係といった問題を扱う場合，その出発点であるエンクロージャー時の土地分配のあり方を確定しておくことが不可欠と思われるからである。いうまでもなく，議会エンクロージャーの性格を明らかにするうえでもっとも重要な点は，そこでの土地の交換・分合のあり方であろう。しかし，この土地問題を個々の事例を通じて完全に検証した研究は目下のところ存在しない。その意味では本稿は，議会エンクロージャーの社会・経済的影響を論じるための基礎を提供しようという目的をもつものである。もっぱら一事例の分析結果であるということは，本稿の限界としてくりかえし強調しておく必要があろうが，一方でその

10) Snell, K.D.M., *Annals of the Labouring Poor: Social Change and Agrarian England, 1660－1900* (Cambridge, 1985), chap. 4.「このようなかたちでエンクロージャーによってこそ出生率の上昇が促進されたとするなら，エンクロージャーが増大する人口の扶養を可能にしたという例の主張がほぼ無意味なものになってしまうことは，もはや自明である。チェンバーズのいう『自然的の増加』はどうあってもそれほど『自然的』とは思われないし，かれとドップによって有名になった『創度的』要因か『自然的』要因かの区別も，むしろ問題を単純化しすぎたようである。」*Ibid.*, p. 217.

11) Hammond, *op. cit.*, chap. 2, 3; Tate, W.E., *The English Village Community and the Enclosure Movement* (London, 1967).

ためにかえってエンクロージャー自体のもつ多様な問題をはらんだ複雑な性格が浮き彫りにされるはずである。

(2) 史料

本稿が主として依拠したのは，バッキンガムシャーの州文書館（Buckinghamshire County Record Office）に所蔵されているウェストン・ターヴィル教区の議会エンクロージャー関係史料である。同館には州内のいくつかの教区について，議会エンクロージャーの関係史料がひとまとまりで所蔵されている。本稿でとりあげるウェストン・ターヴィル教区もそのひとつであるが，同館のご厚意でオックスフォードのボードレー図書館においてこれをマイクロ化し，入手することができた（このマイクロ史料はやはり同州の Princes Risborough 教区の史料もふくむ）。史料の内容は大きく以下のように分類される。

- 議会でのエンクロージャー法案および法令（bill, act）
- 裁定書および囲い込み地図（award, enclosure map）
- エンクロージャー会計簿（各種領収書，計算書をふくむ）
- 各土地所有者の所有不動産の申告書
- 土地台帳
- 囲い込み委員会合議事録（minute book）
- 各種書簡類

このように，エンクロージャー実施過程の文書史料をほとんど網羅しているといえよう。とくに議事録がふくまれることによって，委員の会合を中心としたエンクロージャーの進行状況をつぶさに知ることができる[12]。ただし，これらの史料は印刷された法令から一片の走り書きまで，形態はきわめて多様である。いずれの史料も州文書館の整理番号が明記してあり，以下引用の際はその番号を記すことにする。また本稿で史料の原文を引用する場合，すべて原文の綴りに忠実に翻刻した。

12) この議事録は英文による簡単な解題を付して，『愛媛経済論集』第9巻第1号，第2号（1989），第10巻第1号（1990）に翻刻しておいた。

そのほか，活字史料で主要なものをいくつかあげておく。従来議会エンクロージャー関係の史料としては，承知のように，エンクロージャー法令（enclosure act）およびエンクロージャー裁定書（enclosure award）が利用の中心となってきた。ほぼ一生を議会エンクロージャーの研究に費したさきのTateはこの法令および裁定書のハンドリストを州ごとに順次とりまとめ，イングランド全国版の完成をめざしていた。バッキンガムシャーのものは，Tate, W.E., *A Hand-List of Buckinghamshire Acts and Awards*（Aylesbury, 1946）として刊行された。このリストは教区ごとに法令の年，囲い込み面積，裁定書の年，裁定書所蔵場所等を記した，いわばカレンダーである。かれの死後，ターナーがその意志をひきついで全国版を完成し，議会エンクロージャー情報の新しいスタンダードとなった。Tate, W.E., & M.E. Turner, *A Domesday of Enclosure Acts and Awards*（Reading, 1978）がそれである。

また囲い込み委員の議事録は，ウェストン・ターヴィル教区もふくめていくつかが，雑誌 *Records of Buckinghamshire* に抄録されている。

Davis, E.J., "An 18th- Century Minute Book: Minute of Meetings Held by Commissioners for the Enclosure of the Parish of Weston Turville, 1798－1800", *Records of Buckinghamshire*, XV, 3(1949), pp. 172-181.

Do., "An 18th- Century Minute Book Relating to Meeting Held by Enclosure Commissioners for the Parish of Hartwell and Stone, 1776- 7", *Ibid.*, XV, 2(1948), pp. 97-106.

Eland,G., "Enclosure Commissioners Minute for Drayton Parslow, Bucks., 1797- 1801", *Ibid.*, XI(1923).

うち最後のElandのものは筆者未見。同じ著者による "The Inclosure of Drayton Parslow", *Ibid.*, II, 5(1923), pp. 256-264も会合を中心とした経過のあらましを追ったもの。しかし前者の雑誌巻数が発行年とチグハグで，誤っているかもしれない。

バッキンガムシャーの情報をふくむ同時代の著名な農業事業報告書には，以下のようなものがある。

James, W. & J. Malcolm, *General View of the County of Buckinghamshire, with Observation on the Means of Its Improvement* (1794).

Marshall, W., *The Review and Abstract of the County Reports to the Board of Agriculture*, Vol. 4: Midlands Department (1815, rep., Newton Abbot, 1968).

Reverend St. John Priest, *A General View of the Agriculture of the County of Buckinghamshire* (1813).

Young, A., *The Farmers Tour through the East of England* (1771)

Do., *General Report on Enclosures Drawn up by Order of the Board of Agriculture* (1808, rep., New York, 1971).

うえの Marshall のものは James & Malcolm および StJohn の報告書の内容要約をふくんでいる。St. John については筆者未見。

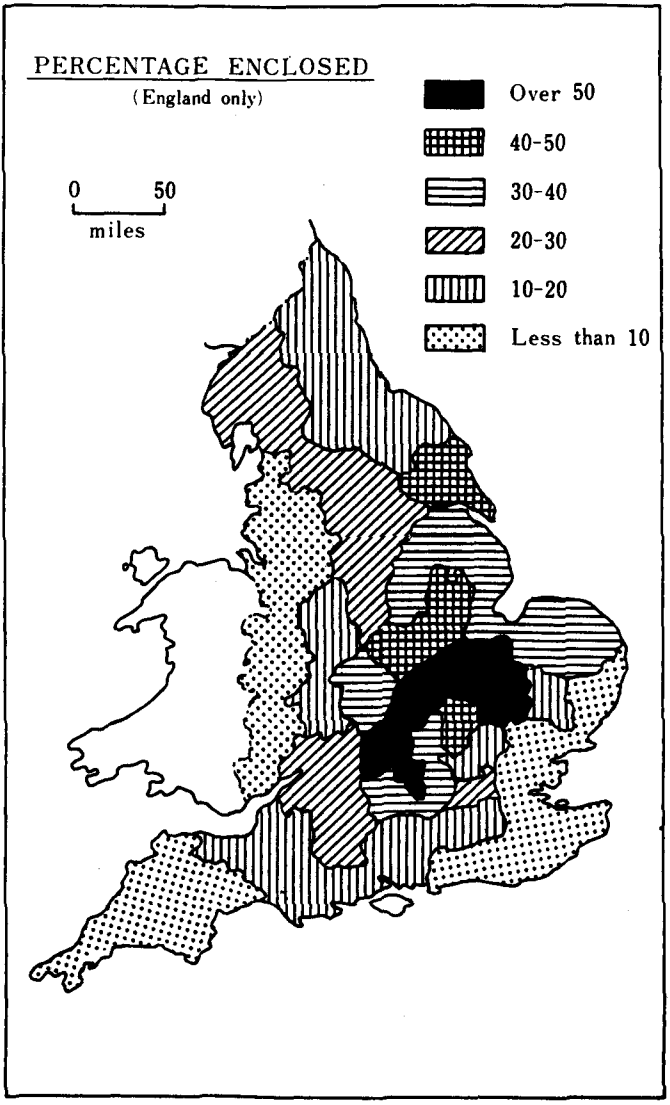
Ⅱ エンクロージャーによる土地分配過程

(1) エンクロージャー実施以前の状況

バッキンガムシャーはミッドランドの最南端部に位置している州である。またその農業事情や議会エンクロージャーの顛末も，ミッドランド全体のそれと類似したものであった。[図1]はイングランドでの議会エンクロージャーの対象となった面積の密度を，州別に示したものである。ここではミッドランドの比率がとくに高いことがわかる。同州では全面積の39%が議会エンクロージャーの対象になった。この密度は全イングランドの州のなかでも，上位九番目にあたる[13]。さらに州内を区分すれば，それは州中・北部の粘土質地帯に圧倒的に集中しており，南部の実施密度は低かった。同州もふくめ一般にミッドランドの議会エンクロージャーは，その実施の隆盛期が1770年代および1790年から1810年頃にかけての二期に分かたれる。もちろん全時期を通じて，エンクロージャー自体にもさまざまな変化がみられた。[図2]は州内の議会エンク

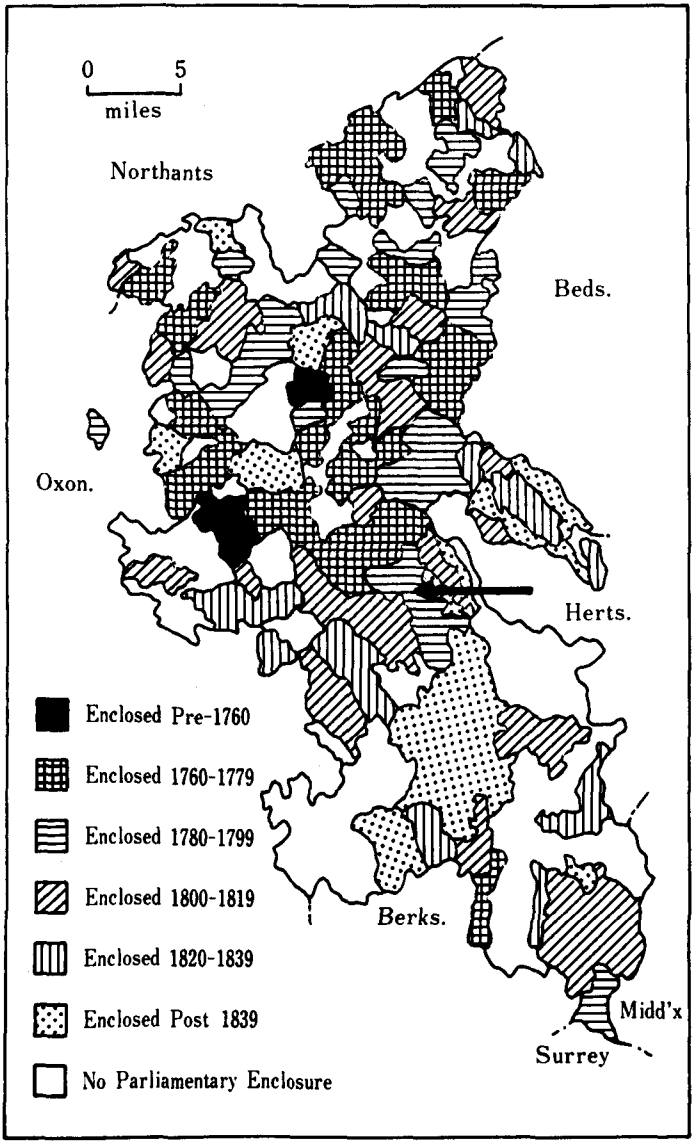
13) Slater, G., *The English Peasantry and the Enclosure of Common Fields* (London, 1907, rep., New York, 1968), p 142.

〔図1〕 議会エンクロージャー対象面積の密度(百分率)



〈出所〉 Turner, M. E., *English Parliamentary Enclosure* (Folkestone, 1980), p.35.

〔図２〕 バッキンガムシャーでの議会エンクロージャー実施年



〈出所〉 *Ibid.*, p. 64.

ロージャーの実施年（法令を基準）を教区ごとに示したものである（地図中にウェストン・ターヴィル教区の位置を矢印で示したが，矢印のついたかたまりのうえ三分の一程度の部分がそうである)。概してバッキンガムシャーにおいて1760，70年代に囲い込まれた教区では500エーカー以上の大土地所有者が大きな比率を占めることが多く，一教区の土地所有者数は少なかった。そして1790年代から十九世紀初頭にかけては，100ないし200エーカーの中規模農民層が優勢となった。そして十九世紀がすすむと再び大所有者の比率が上昇したが，土地所有者そのものの人数は多かったので，エンクロージャーへの反対もひとしおであったといわれる。ただし，以上はごく大まかな傾向にすぎない[14]。なお，州および教区の地理的な事情はすでに別稿で概観しておいた[15]。

まず当時のマナーの権利をみてみよう。エンクロージャー最中の不動産申告時に，3種類ほどのマナーの権利（manorial right）が申告されている。エンクロージャー法令では国王のジョージ三世が“His ... Majesty ... as Lord of the Manor of Weston Turville”として，正式のマナー領主となっている（IR/M/3/1/1，p. 17)。*Victoria County History* によると，ここではノルマンの征服以来，manorial right と転封（subinfeudate）された sub- right が併存してきた。前者の権利は中世期には Earl of Leicester が所持していたが（十三世紀には一時期 Simon de Monfort がこれをつとめた)，のち Earl and Duke of Lancaster(= Duchy of Lancaster) の手に移った。エンクロージャー当時はランカスター公は国王となっていた。また後者の sub- right は複数がエンクロージャーまで受け継がれ，のちにみるように，それぞれの所有者が申告をおこなっている[16]。

教区の総面積は，今世紀初頭の数字をあげると2,324¼エーカーとなっている。うち耕地1,070エーカー，森林7½エーカーで，残りは牧場（permanent

14) バッキンガムシャーのエンクロージャーと土地所有動向の概観は，Turner, *op. cit.* を参照。
15) 拙稿「イギリス議会エンクロージャーにおける囲い込み委員の活動」『三田学会雑誌』第79巻第6号(1987)，56－57頁。
16) Page, W.(ed.), *The Victoria County History of the County of Buckingham* (London, 1908－25), III, pp. 366－370.

pasture）である[17]。総人口は，1801年のセンサスによれば497人である[18]。エンクロージャー直前の土地所有状況については，エンクロージャー時の申告不動産一覧表や土地測量簿（"Quality Book"）を別にすれば，面積や位置を示す史料はみあたらない。ただし，本稿で使用している史料のなかに，エンクロージャー直前の1796, 1797, 1798各年の地租査定簿(Land Tax Assessment, Return)がふくまれている。

地租査定簿を土地所有の実態を観察するという目的で分析するにあたっては，いろいろ論議があった。前節であげた A.H. Johnson, E. Davies, H.L. Gray 以降，議会エンクロージャー期の土地所有動向をみる際にはこの史料の使用がなかば常識化していったが，かれらは共通して査定簿記載の地租額を所有地面積に置き換える手続きをふんだ（acre equivalence)。1960年代に入って G.E. Mingay が，このような手続きにあたっては，とりわけ慎重な態度が要されることを強調した。Mingay はその理由として，つぎのようなことをあげている。第一に，全般的な税負担の比率であるが，最高は戦時中にみられたように，年収入1ポンドの土地あたり4シリング（20%）であったが，平均率はずっと低く，十八世紀を通じて低下し，つねに一定ではなかった。第二は地域的偏差で，すでに十七世紀のこの税の創設時から存在していた。率でいうと，イングランド東南部は概して10%以上であったが，同西南部では5%以下も珍しくなかった。のみならず，同じ州内でも教区ごとにバラツキがあったし，同じ教区でも土地の状態や宅地がどうかで評価が違っていた（たとえば宅地や囲い込み地の比率が高いため，小土地所有者ほど割高なことが多かった)。そのためかれの計算によれば，地租4シリングに対応する範囲は，面積でみれば0.64から4.12エーカー，年地代でみれば13.2から38.8シリングという大きな偏差があった。第三に，1798年に制度的な二つの変化があった。ひとつは"voluntary redemption"と呼ばれるもので，一定年数の前払いにより地租を償却すること（免除）が可能になったこと，もうひとつは，年20シリング以下の価値の土地については免税に

17) *Ibid.*, III, p. 365.

18) In: *Comparativ Account of the Population of Great Britain in the Years 1801, 1811, 1821, and 1831* (House of Commons, 1831), p. 33. 本史料を貸与くださった愛媛大学の谷川宗隆教授に，ここで謝意を表しておきたい。

なったことである。これによって地租査定簿から多くの名前が消えてしまったと思われる。Mingay はこのような事実を指摘し，Johnson らのナイーブなかたちでの地租の "acre equivalence" をいましめたのである[19]。

このような問題が指摘される一方で，地租査定簿はこの時期の貴重な史料として，依然として多くの研究で用いられている。J.M. Martin はウォリックシャーを対象に地租査定簿とエンクロージャー裁定書とを比較した結果，地租4シリングの対応面積は2.5から3.7エーカーという比較的狭いレンジ内にとどまっていることから，acre equivalence の有効性をふたたび主張した[20]。このほかにも，前述の諸点に注意を払いつつ，新しい分析法もふくめてこの史料を積極的に活用した研究が，近年，ぞくぞくと現われている[21]。

以上の点に留意しつつ，ウェストン・ターヴィル教区のエンクロージャー直前の3年間の地租内容をみてみよう。[表1]は3年分のデータを比較のためにまとめて一覧表にしたものである。左の欄は所有者名 (Names of Proprietors)，中央に占有者名 (Names of Occupiers)，右に地租額を示した。占有者が空欄になっているのは，自作農（いわゆる Owner-Occupier）である。また金額が空欄になっているのは，その年には地租査定簿に名前がないことを意味する。さてこの一覧表からどのようなことが読みとれるであろうか。3年とも合計額は同じく329ポンド6シリング5½ペンスとなっている。しかし表の所有者のなかにはエンクロージャー当時500エーカーあまりの土地を所有し，教区最大の所有者であったロンドンの Mercers Company がふくまれていない。また，

19) Mingay, G.E., *English Landed Society in the Eighteenth Century* (London, 1963), pp. 81－83; Do., "The Land Tax Assessments and the Small Landowner", *Econ. Hist. Rev.*, 2nd Ser., XVII, 2(1964), pp. 382－386.

20) Martin, J.M., "Landownership and the Land Tax Returns", *Agric. Hist. Rev.*, XIV, 2 (1966), pp. 100ff; Do., "The Parliamentary Enclosure Movement and Rural Society in Warwickshire", *Ibid.*, XV, 1 (1967), pp. 19－39.

21) Neeson, J.M., "Common Right and Enclosure in Eighteenth Century Northamptonshire", unpublished PhD thesis (University of Warwick, 1977), Appendix A; Broad, J., "Alternative Husbandry and Permanent Pasture in Midlands, 1650－1800", *Agric. Hist. Rev.*, XXVIII, 2 (1980), pp. 82－83; Soltow, L., "Wealth Distribution in England and Wales in 1798", *Econ. Hist. Rev.*, 2nd Ser., XXXIV, 1 (1981), pp. 60－70.

〔表1〕 1796, 1797, 1798年の地租査定簿

所有者名	占有者名			地租額 (£-s-d)		
	1796	1797	1798	1796	1797	1798
Henry Allnutt[a]	Benjn. Bates	Benjn. Bates	Benjn. Bates	0-4-8	0-4-8	0-4-8
Messiuars		John Parrott	John Parrott		7-17-3	7-17-3
John Axtil[b]						0-6-6
Jacob Baldwin	Willm. Horn	Willm. Horn	Willm. Horn	0-4-0	0-4-0	0-4-0
Jacob Baldwin	James Clare	James Clarke[c]	James Clare	0-8-0	0-8-0	0-8-0
Jacob Baldwin	Rich^{d}. Lloyd	Rich^{d}. Lloyd	Rich^{d}. Lloyd	0-4-0	0-4-0	0-4-0
John Barker	Jane Ingram	Jane Ingram	Jane Ingram	0-5-0	0-5-0	0-5-0
Charles Barnett	Hannah Brill	Hannah Brill	Hannah Brill	0-12-0	0-12-0	0-12-0
Willm. Bates				0-11-8	0-11-4	0-11-4
Joseph Brooks	Ann Mander	Ann Mander	Ann Mander	0-5-4	0-5-4	0-5-4
Jos. Burnham	John Shelton	John Shelton	John Shelton	4-3-1 ½	4-1-9	4-1-9
Willm. Burtt					3-5-2	3-5-2
John Burtt				3-7-1		
Robt. Collett	Engl^{d}. Goodson	Engl^{d}. Goodson	Engl^{d}. Goodson	5-16-8	5-13-4	5-13-4
Messiuars	George Rawlinson	George Rawlinson	George Rawlinson	29-12-1	28-15-2	28-15-2
Mary Croxford	Howes Weedon	Howes Weedon	Howes Weedon	0-5-4	0-5-4	0-5-4
Mary Croxford	George Thorn	George Thorn	George Thorn	0-4-0	0-4-0	0-4-0
Mary Croxford	Thos. Axtil	Thos. Axtil	Thos. Axtil	0-10-0	0-10-0	0-10-0
Thos. Croxford	Nath. Filby	Nath. Filby	Nath. Filby	0-9-4	0-9-4	0-9-4
Sir John Dashwood[d]	Fra^{s}. Carter	Ed. Hill	Ed. Hill	1-15-0	1-14-0	1-14-0
Thos. Dell	John Jones	Thos. Mobley	Thos. Mobley	0-13-1 ½	0-12-9	0-12-9
Messiuars	John Parrott			8-1-10 ½		
Robt. Fitkin		James Burnham	James Burnham		0-4-8	0-4-8

Aquila Goodson	Fra^{s}. Bishop	Fra^{s}. Bishop	Fra^{s}. Bishop	0-8-3	0-8-3	0-8-3
Joseph Goodson	John Goodson	John Goodson	John Goodson	4-3-1 ½	4-1-9	4-1-9
Thos. Grace	George Mead	George Mead	George Mead	4-17-8 ½	4-13-11	4-13-11
Honble. Thos. Hampden	John Foster	John Foster	John Foster	2-6-8	2-5-4	2-5-4
Buckel Hawes	Willm. Brill	Willm. Brill	Willm. Brill	4-13-4	4-10-8	4-10-8
Thos. Hill	John Axtil	John Axtil		0-6-6	0-6-6	
Rich^{d}. Hitchcock				0-3-0	0-2-10	0-2-10
Hewards Hook	Willm. Brill	Willm. Brill	Willm. Brill	0-5-10	0-5-8	0-5-8
John Hughes				2-0-10	2-0-3	2-0-3
Late Humphreys	Thos. Mobley	Thos. Mobley	Thos. Mobley	1-9-2	1-8-4	1-8-4
Late Humphreys	Willm. Brill	Willm. Brill	Willm. Brill	0-4-4 ½	0-4-3	0-8-6
Late Humphreys	Eliz. Minney	Eliz. Minney	Eliz. Minney	0-10-0	0-10-0	0-10-0
Late Humphreys	James Burnham			0-4-8		
The Rev^{d}. D^{r}. Hunt	Tithes and Glebe	Tithes and Glebe	Tithes and Glebe	56-10-2 ½	54-18-1 ½	54-18-1 ½
Jos. Jackson	Fra^{s}. Purssell	Fra^{s}. Purssell	Fra^{s}. Purssell	5-16-8	5-13-4	5-13-4
Willm. Keen				0-6-8	0-6-8	0-6-8
Ed. King	Saml. King	Saml. King	Saml. King	0-8-9	0-8-6	0-8-6
Thos. Lowndes (e)	Willm. Hughes	Willm. Hughes	Willm. Hughes	15-1-10	14-13-3	14-13-3
Willm. Minshull	Willm. Neighbour	Willm. Neighbour	Willm. Neighbour	11-4-7	10-12-6	10-12-6
Rich^{d}. Mobley (f)				0-15-4	0-9-8	0-9-8
Thos. Mobley (f)					0-5-8	0-5-8
Messiuars		Willm. Keen	W^{m}. Keen		1-4-1	1-4-1
Ed. Neighbour				3-4-2	3-2-4	3-2-4
Ed. Neighbour	Rich^{d}. Edmonds	Rich^{d}. Edmonds	Rich^{d}. Edmonds	0-8-0	0-8-0	0-8-0
Willm. Neighbour				2-11-3	2-10-0	2-10-0
John Newman	John Hughes	John Hughes	John Hughes	44-7-0	43-1-4	43-1-4
Thos. Newman	Willm. Bates	Willm. Bates	Willm. Bates	1-15-0	1-14-0	1-14-0

Sir John Packington[g]	Mrs. Hitchcock	Richd. Hitchcock	Thos. Kingham	4-8-11 1/2	5-6-8	6-18-11
Poors Land	Richd. Purssell	Richd. Purssell	Richd. Purssell	0-17-6	0-17-0	0-17-0
Fras. Purssell	Thos. Purssell	Thos. Purssell	Thos. Purssell	0-8-9	0-8-6	0-8-6
Fras. Purssell				5-3-6 1/2	5-0-7	5-0-7
Richd. Purssell				1-19-4	1-18-3	1-18-3
John Randel and Busbey[h]	Willm. Bates	Willm. Bates	Willm. Bates	5-15-2 1/2	3-10-10	3-10-10
John Randel and Busbey		Willm. Brill	Willm. Brill		3-10-10	3-10-10
George Rawlinson				1-9-2	1-2-8	1-2-8
Elizth. Sanders[i]	Saml. King	Saml. King	Saml. King	5-2-1	4-19-2	4-19-2
Mr. Scotford[j]	Ed. Neighbour	Ed. Neighbour	Ed. Neighbour	2-6-8	2-5-4	2-5-4
John Simons	Saml. King	Saml. King	Saml. King	2-18-4	2-16-8	2-16-8
Thos. Simons				2-13-11 1/2	2-12-5	2-12-5
Lord Temple	John Burtt	Willm. Burtt	Willm. Burtt	2-12-6	2-11-0	2-11-0
Lord Temple	Richd. Purssell	Richd. Purssell	Richd. Purssell	16-13-11 1/2	16-0-2	16-0-2
Lord Temple	John Fisher	John Fisher	John Fisher	0-11-8	0-11-4	0-11-4
Mrs. Tompkins				2-11- 1/2	2-9-7	2-9-7
Mrs. Tompkins	Thos. Simons	Thos. Simons	Thos. Simons	19-9-4 1/2	19-5-0	19-5-0
Thos. Winter	John Lloyd	John Lloyd	Richd. Hitchcock	10-4-2	12-15-0	12-15-0
John Woodcock[k]	Thos. Mobley	Thos. Mobley	Thos. Mobley	1-1-10 1/2	1-1-3	1-1-3
Messiuars	Willm. Keen			1-4-9 1/2		
Lord Wycombe	John Burtt	Willm. Burtt	Willm. Burtt	24-15-10	24-1-8	24-1-8
			合　計	329-6-5 1/2	329-6-5 1/2	329-6-5 1/2

〈史料〉1796：IR/M/3/2/8/5，1797：IR/M/3/2/8/8，1798：IR/M/3/2/8/4.

〈表注〉(a)1796ではHarnettとなっているが，おそらく誤記で同じ人物。
(b)正しくは（つまりエンクロジャーにおける氏名表記は）John Axtell.
(c)おそらくJames Clareの誤記。
(d)正しくはSir John Dashwood King.
(e)1797年にはEsqr. の付記がある。
(f)1796年にはこの両者はRichd. Mobley & Thos. Mobley として同一項目となっている。
(g)1996にはSir Harbard Pagintonとあるが，おそらく近親者であろう。
(h)正しくはGeorge Busdy & John Randolph.
(i)1796には名がElizth. でなくJohnとなっている。
(j)1796，97にはMr. ではなくMrs. となっている。
(k)1797には "in Mr. Burnhams Clain" という但し書きがある。

やはり160エーカーというかなりの規模の所有者であったバッキンガム候（Marquis of Buckingham）も同じである。ほかにもいくつかこのような例があり，理由はわからない。したがってこの史料は，教区の土地所有状況の全容を示すものではないとみた方がよかろう。

つぎに年ごとの動向を追ってみよう。順序は前後するが，1797年から98年にかけては所有者・占者有・地租額ともほとんど変化はない。わずかに新参者がJ. Axtil(＝Axtell)一人，消滅者はT. Hill一人である。しかしHillの土地の占者有はAxtellとなっており，地租額が同じことから，Axtellが占有していたHillの土地を買い取って自ら所有者となったのはまちがいない。これにたいして96年から97年にかけては，つぎのような変動があった。

① まず消滅者が4人ほどいる。

- J. Burtt（自作農）
- T. Dell（J. Parrott占有分）
- Late Humphreys（J. Burnham占有分）
- J. Woodcock（W. Keen占有分）

② 新参者も多いが，いずれもうえの消滅者の分と関係がふかい。

- H. Allnutt（J. Parrott占有分）：額をみればうえのParrott占有のDellの分との持ち分交換と思われる。額の若干の違いについてはつぎの③を参照。
- W. Burtt（自作農）：額からして同じくJ. Burtt（近親者？）からの移動と同われる。
- R. Fitkin（J. Burnham占有分）：同じくHumphreysからの移動と思われる。
- T. Mobley（自作農）：97年よりR. Mobleyと共同所有になっている。
- T. Mobley（W. Keen占有分）：同じくWoodcockからの移動と思われる。
- J. Randel and Busby（W. Brill占有分）：これはうえとは関係ないらしい。

③ 96年から97年にかけての地租額をひととおりくらべてみると，同じ所有者の土地のほとんどが3％前後減額となっていることがわかる（ただし10シリング以下の土地は端数が出るためであろう，減額になっていないことが多い）。増額になっている者はごく少ない。これは面積がそろって3％減ったとは考え

にくいから，何らかのかたちの地租の評価変えがあったのであろう。地租の総額は，しかし，変わっていない。

ウェストン・ターヴィル教区のエンクロージャーは1798年に正式に開始した。前年の97年には教区の主要な土地所有者の合意をとりつけ，議会に提出する請願書をまとめるための盛んな活動がおこなわれた。したがって，うえのような96年から97年にかけての土地所有状況の変化によって，いわば教区のエンクロージャー体制がかたまったものとみてよかろう。しかしここであげた地租査定簿はわずか3年間のものであり，これだけで何らかの明確な傾向を読み取ることはできない。

なおこれとは別種の地租査定簿がやはり3つほど史料にふくまれている（IR/M/3/2/8/2，6，7）。これらはいずれも“State of Property in Weston Turville as Assessed to the Land Tax”と題されている。いまあげた一連の地租査定簿とはいくつかの点で違いがあるが，こちらの方は各所有者の地租の額を“Assent”，“Dissent”，“Neuter”にそれぞれ分類している。年月日の記入はないが，内容からみてエンクロージャー以前のいずれかの時点で作成された，エンクロージャーへの賛成・反対・態度保留の分の地租額を示した表と推測される。地租額はうえの1796年のものとほぼ同じになっているが，前述のようにそちらには名前のない The Marquis of Buckingham と The Mercers Company が，こちらにはふくまれている。額はそれぞれ19ポンド18シリング1½ペンス，38ポンド18シリング8½ペンスとやはり多額であるが，教区牧師の Hunt や J. Newman よりは少ない。エンクロージャー賛成，反対の地租額に目をうつすと，3つのあいだで多少の異同がある。うち IR/M/3/6/8/7 の数字をあげると，反対が H. Allnutt で5ポンド弱（なぜか Allnutt の地租額のみ1796年のものと違っている），保留が9名で約27ポンド，残りはすべて賛成で合計約302ポンドと圧倒的に多い（下院議事録 House of Commons Journal にもこの数字が記されている[22]）ちなみに IR/M/3/2/8/2 では賛成の W. Minshull が保留にま

22) Turner, M.E., "Economic Protest in Rural Society: Opposition to Parliamentary Enclosure in Buckinghamshire", *Southern History*, X (1988), p. 119.

わっており，IR/M/3/2/8/6では保留のJ. Packingtonが賛成に，同じく保留のR. Purssellが反対にまわっているが，いずれにしても大勢に影響はない。賛成が地租額にして9割近い数字で，議会での法案通過に必要な比率を大きくうわまわっている。エンクロージャー開始のための第一関門は，これで無事通過したことになる。